

## 第8 青少年赤十字の活動

青少年赤十字（Junior Red Cross）の活動は、学校教育の場で、青少年が赤十字の精神に基づいて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、青少年自身が日常生活を通して望ましい人格と精神を自ら形成することを目的とし、その活動指針として、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」という3つの実践目標を掲げ活動する。

平成21年度は、新規に9校（園）を加え、213校（園）が青少年赤十字を採用し、各学校現場において活動に取り組んだ。

5月の新型インフルエンザ患者の発生時には、「健康・安全」の実践と位置づけ、全ての採用校で感染予防の学校ぐるみの活動を呼びかけ、日本赤十字社が作成した啓発資材を10万部増刷し、全生徒及び生徒を通じて家庭に配布し、予防活動の実践に取り組んだ。

なお、感染拡大のため国際交流派遣事業や青少年赤十字のつどい、スタディー・センターなど、予定していた行事の中止を余儀なくされた。

### 1 青少年赤十字活動の充実

#### (1) 会議・研修会の実施

##### ア 各種会議

年間の事業計画、活動方針を決定し、その円滑な運営を図るための採用校校長会総会をはじめとする各種会議を開催した。

##### 【指導者対象】

会議名	回	期日・会場	内 容
採用校校長会 (指導責任者会) 総会	1	4月22日(水) ホテルポートプラザちば	有功章・支部長感謝状等贈呈、 事業報告、決算報告、事業計画、 予算、講演
幹事会	2	10月9日(金)、2月9日(火) 千葉県赤十字会館	各種会議・研修会等実施報告、 地区活動情報交換、問題点討議他
運営委員会	2	5月8日(金)、8月25日(火) 千葉県赤十字会館	事務取扱要項、事業計画細案、 地区TCの運営について、 表彰について他
常任運営委員会 (臨時委員会含)	6	5月2日(土)、6月15日(月) 8月20日(木)、11月6日(金) 1月9日(土)、3月20日(土) 千葉県赤十字会館	事業計画立案、事業検討、 事業運営、各種事業の反省他
常置委員会	2	3月20日(土)、3月26日(金) 千葉県赤十字会館	JRCちばの作成、パンフレットの作成 ホームページの見直し他
第2B青少年赤十字 指導者研究協議会 (日赤第2ブロック主催)	1	8月17日(月) 日本赤十字社東京都支部	校種別研究発表、 各県との情報交換、 分科会での研究協議等
全国青少年赤十字 指導者協議会総会 (全国指導者協議会主催)	1	6月25日(木)～26日(金) 日本赤十字社本社	青少年赤十字活動の現況報告、 各県との情報交換、 全国指導者協議会役員の選出他

## 【メンバー対象】

期日・会場	内 容
6月19日(金)、2月19日(金) 千葉県赤十字会館	活動紹介、人間関係づくり体験学習

## イ 各種研修会

校長・教頭対象研修会をはじめ、青少年赤十字指導者対象の各種研修会を開催したほか、地区トレーニング・センターや救急法など、メンバー対象の研修会等を開催した。

### 【指導者対象】



研修会名	期日・会場	備 考
指導主任者研修会	5月8日(金) 千葉県赤十字会館	参加者 52名 スタッフ 5名
校長・教頭対象研修会	5月20日(水) 青少年女性会館	参加者 26名 スタッフ 5名
地区指導者協議会長研修会	5月20日(水) 青少年女性会館	参加者 10名
トレーニング・センター 指導者養成講習会(本社主催)	6月3日(水)～6日(土) 静岡県YMCA東山荘	参加者 2名 市立銚子高校、県立匝瑳高校
トレーニング・センター 指導者研修会	6月15日(月) 千葉県赤十字会館	参加者 12名
全国指導者協議会研修会	6月25日(木)～26日(金) 日本赤十字社本社	指導者協議会会長 香取市立府馬小学校 奥田 誠 校長
JRC高校生メンバー・指導者 対象救急法救急員養成講習会	8月5日(水)～7日(金) 千葉県赤十字会館	参加者 4名
青少年赤十字中央講習会 (本社主催)	8月5日(水)～8日(土) 静岡県YMCA東山荘	参加者 1名 山武市立鳴浜小学校 橋口丈乃 教諭
第2ブロック指導者研究協議会 (当番県)	8月17日(月) 日本赤十字社東京都支部	参加者 76名 (千葉県：小4名・中4名・高5名の 指導者)
青少年赤十字指導者研修会	8月18日(火)～20日(木) ポートプラザちば	参加者 34名 (スタッフ含む)
青少年赤十字常任運営委員 ・運営委員等研修会	12月26日(土)～27日(日) 蓮沼ガーデンホテルマリノ	参加者 30名 (スタッフ含む)
指導主事対象 青少年赤十字研究会	1月20日(水)～22日(金) 湘南国際村センター	千葉県教育庁北総教育事務所 指導主事 増田正利 スタッフ 1名 (奥田 誠 会長)

### 【メンバー対象】

研修会名	期日・会場	備 考
リーダーシップ・ トレーニング・センター	7月27日(月) ～8月25日(火) 県内12会場	参加学校数 88校 参加児童・生徒 392名 参加指導者 194名
JRC高校生メンバー・指導者 対象救急法救急員養成講習会	8月5日(水)～7日(金) 千葉県赤十字会館	参加者 4名
全国青少年赤十字 スタディー・センター	3月24日(水)～29日(月) 山梨県東照館	愛国学園四街道高等学校 2年 早川悠希 県立旭農業高等学校 2年 加瀬紗弥香



### (2) 青少年赤十字研究推進校

各校種別に1校の研修推進校を指定し、青少年赤十字の教育実践について、先駆的な取り組みを試み、研究紀要に取りまとめ、青少年赤十字採用校をはじめ教育関係機関に配布した。

校種	学 校 名	指 定 期 間
小 学 校	香取市立府馬小学校	平成21年度～平成23年度
中 学 校	松戸市立河原塚中学校	平成20年度～平成22年度
高等学校	敬愛学園高等学校	平成19年度～平成21年度

### (3) 国内交流派遣事業

ア 国内交流派遣事業（中止となった国際交流派遣事業に代えて実施した）

- 1) 期 間：平成21年7月27日(月)～7月30日(木) 3泊4日
- 2) 訪問先：鹿児島県、佐賀県、熊本県
- 3) 派遣団：高校生メンバー 4名、中学生メンバー 4名  
指導スタッフ3名（教師2名、支部職員1名） 計 11名
- 4) 内 容：①鹿児島県青少年赤十字メンバーとの交流  
②日本赤十字社創設のゆかりの地を探訪

### 参加メンバーの感想

- ・交流を通じて、新しい活動を始めようと思うキッカケになった。
- ・自分の通う学校にない様々なJRC活動を知る良い機会となった。
- ・戦争のことなど、教科書上でしか知らなかったことを深く自分の目で見ることができ、良い勉強になった。また、命の尊さ、重みを学んだ。



### イ 国内交流派遣事業

- 1) 期 間：平成22年2月26日（金）～2月28日（日） 2泊3日
- 2) 訪問先：佐賀県、熊本県
- 3) 派遣団：小学生メンバー 6名  
指導スタッフ 3名（教師2名、支部職員1名） 計 9名
- 4) 内 容：①佐賀県青少年赤十字メンバーとの交流  
②日本赤十字社創設のゆかりの地を探訪

### 参加メンバーの感想

- ・私も進んでボランティア活動をして、困っている国のために少しでも安心してくらしができるように、協力をして活動していきたいと思った。
- ・この体験を通して、「協力・意見を持つ・時こくを守る」ことの大切さや、「命の尊さ」を学ぶことができた。



ウ 国内交歓交流事業

- 1) 期 間：平成22年3月13日（土）～3月14日（日） 1泊2日
- 2) 訪問先：福井県
- 3) 派遣団：高校生メンバー 4名、中学生メンバー 4名  
指導スタッフ 3名（教師2名、支部職員1名）計11名
- 4) 内 容：①福井県青少年赤十字メンバーとの交流  
②「人道の港」と称される敦賀市を訪ね、史実に基づく人道活動を学ぶ

参加メンバーの感想

- ・数多くの壁を苦悩し解決した歴史に、赤十字の原点が敦賀にあったんだと感じた。「赤十字活動はすばらしい」と心から感じた有意義な2日間だった。
- ・敦賀ムゼウムの見学を通じて、助け合いの精神が、今までずっと日本の赤十字の活動に受け継がれているということがわかった。



(4) 赤十字奉仕団との連携

総合的な学習や体験学習における教育実践に、地域の赤十字奉仕団との連携・協力を得て、防災活動や高齢者介護等の体験学習の効果的な展開を図った。

体験学習等に対する講師等の派遣状況

実施回数	対象児童・生徒	内 容
25回	3,599名	非常食炊飯、車椅子体験、高齢者体験 他



### (5) 赤十字施設と連携した学習

青少年赤十字採用校を中心に、中学生の職場体験学習（キャリア教育）を血液センターなど赤十字施設で実施する例が少なくない。支部・施設では積極的に受入れ、人の命を救う業務の重要性や仕事の意義について、様々な体験を通して学んでもらえるよう努めた。

職場体験等の受入状況

実施回数	対象児童・生徒	内 容
11回	89名	献血ルーム業務体験、施設見学・講話

## 2 青少年赤十字の加盟促進

### (1) 加盟推進委員等による学校訪問

加盟推進委員（青少年赤十字賛助奉仕団等）の協力を得て、県内各地区の青少年赤十字未加盟校を訪問し、青少年赤十字の活動を紹介し、加盟を勧めた。

### (2) 未加盟校への説明会等の開催

市町村教育委員会等の協力を得て、管内学校の会議・研修時に青少年赤十字の説明の機会を設け、加盟促進に努めた。

また、指導者対象の研修会には、未加盟校にも参加を呼びかけ、平成21年度は、8校から8名の参加があった。

青少年赤十字の加盟状況

	学校・園数		
	平成20年度	平成21年度	増 減
幼稚園・保育園（所）	12園	15園	3
小学校	75校	78校	3
中学校	54校	55校	1
高等学校(特別支援学校含む)	63校	65校	2
合 計	204校(園)	213校(園)	9

## 3 青少年赤十字の広報

青少年赤十字採用校相互の情報共有と活動の交流を図るため広報誌を発行した。

また、未加盟校に青少年赤十字を紹介するパンフレットを作成し、訪問活動や説明会等で活用する。

作成物	発行部数	備 考
広報誌「JRCちば」	1,700	活動紹介等
青少年赤十字紹介用パンフレット	3,000	加盟促進用

## 第9 社会福祉事業の推進（義肢製作所の運営）

社会環境の変化、医療の進歩などにより義肢・装具の需要にも変化が見られ、ニーズも多様化してきている。四肢の切断におよぶ症例は少なくなり、脳血管障害による片麻痺などのケースが増え、製作する補装具も義足などの義肢から内反、尖足防止などの下肢装具など、装具の製作へと移行しつつあるなか、アフターサービス・メンテナンスサービスに重点を置き、来所の困難な方には戸別訪問を行うなど赤十字事業ならではの取り組みに努め、平成21年度は延べ498人に対し補装具等の製作・修理を行った。

### ○平成21年度補装具取扱件数

- ・大腿義足 52件
- ・下腿義足 98件
- ・義手 20件
- ・下肢装具 216件
- ・その他 112件



### 1 出張相談及び訪問相談

身体障がい者の職場や日常での生活の質の向上を図るため、技術とサービスの向上に重点を置き、千葉県障害者相談センター・千葉市障害者相談センターの実施する出張相談へ参加するほか、来所困難な障がい者の自宅へ出向く訪問相談を積極的に行うなど、障がい者の状況に応じた製作・修理事業を実施した。

平成21年度は288回の出張・訪問相談を行い、延べ517人の相談に応じた。

### 2 医療機関との連携協力

成田赤十字病院をはじめとする医療機関と連携し、事故や糖尿病などによる下肢切断の患者に対し義足を製作した。併せて患者のリハビリテーションに協力した。



#### 義肢製作所で扱う補装具等

##### (1) 義肢

###### ◎義足

- 股義足
- 大腿義足
- 膝義足
- 下腿義足
- 足根中足義足等

###### ◎義手

- 肩義手
- 上腕義手
- 肘義手
- 前腕義手
- 手指義手等

##### (2) 装具

###### ◎下肢装具

- 股装具
- 長下肢装具
- 膝装具
- 短下肢装具等

###### ◎靴型装具

###### ◎体幹装具

###### ◎上肢装具

##### (3) その他の装具

- 車椅子・頭部保護帽等
- 歩行補助杖・松葉杖等
- リハビリシューズ等

### 3 広報活動

支部ホームページでの広報活動を行うとともに、新たに広報パンフレットを作成し、義肢等装具の啓発と新規顧客の開拓に努めた。



### 4 見学者の受入

日本赤十字社では唯一の義肢製作所であり、また、企業経営が大半を占める業界にあって、特色のある経営を行っていることもあり、見学者が多く訪れる。

社屋の完成により義肢製作所の工房が刷新された21年度秋以降は県外からの見学者も含め増加した。これに積極的に対応し、身体障がい者や義肢・装具に対する理解・促進の啓発に努めた。

平成21年度見学者数 1,253名



## 第10 赤十字精神と社旨の普及

日本赤十字社が、国の内外で行う人道的諸活動及び事業は、これを支持・共感する人々や企業・団体が自発的に寄せる資金が唯一の財源である。

景気が低迷し、厳しい経済情勢が続いている中で、赤十字運動の全国統一スローガンである「いのちを救う、力を合わせよう」のよびかけを中心にすえた広報活動を展開し、赤十字地域奉仕団や地区分区、さらには協賛してくださる町内会等の役員の方々との協働により、40万人を超える方々の赤十字社員と6億7千万円余の、ほぼ目標額に近い活動資金（社資）の実績をあげることができた。

平成21年度社資募集実績額 673,581,397円

### 1 赤十字社員の募集

赤十字社員を草の根のように広げていくことは、人道的な世論形成であるとともに社業の継続的發展にとって不可欠な活動資金の安定的確保であることから、平成21年度も赤十字運動月間の5月・6月を中心に、全県規模で取り組んだ。

人間なら誰の心の中にも献身的な愛情が内在するものなのに、その心でものを感じ、考え、行動することが難しい人間たちに、熱心に呼びかけて思い出させてくれるのは、赤十字である。

～アルバート・シュヴァイツァー（医師）～



#### (1) 個人社員

- 全戸にチラシを配布（回覧）し、地区分区を通じ町内会の協力を得て、募集活動に取り組んだ。
- 公共機関等職員を対象に、職場でチラシの回覧を依頼するなどして、社員登録をよびかけた。
- 海外救援金を寄託された方に社員登録をよびかけ、社費の自動引落しに賛同いただいた。

平成21年度実績 402,162人（個人社員）

#### (2) 法人社員

- 地元の商店街や企業に対しては、各市町村の赤十字地域奉仕団が地域に根ざした社資募集を行った。
- 県内経済界を代表する経済七団体に、社資募集に対し後援を得ると共に、各団体が発行する会報への広報掲載について、協力をいただいた。

- 大手企業に対しては、規模に応じ本社及び支部が担当し、職員の訪問あるいはダイレクトメールにより、活動資金への協力を要請した。
- タウン情報紙発行企業のご協力を得て、社資募集活動についての広報スペースの提供をいただいた。

平成21年度実績 13,894社（法人社員）

(3) 赤十字地域奉仕団による社資募集

町内会や商店街等に対する赤十字地域奉仕団の社資募集活動の実績は、次のとおりであった。

なお、法人社資募集全体の54%が地域奉仕団によるものである。

個人社資	法人社資	計
円	円	円
30,271,590	42,266,711	75,280,801

(4) 赤十字地域奉仕団表彰

社員増強・社資募集運動において、優秀な実績をあげた赤十字地域奉仕団に対し、感謝状を贈呈した。

ア 特別優良赤十字地域奉仕団

いすみ市赤十字奉仕団
------------

イ 優良赤十字地域奉仕団

銚子市赤十字奉仕団	東金市赤十字奉仕団	旭市赤十字奉仕団
勝浦市赤十字奉仕団	鴨川市赤十字奉仕団	君津市赤十字奉仕団
袖ヶ浦市赤十字奉仕団	南房総市赤十字奉仕団	匝瑳市赤十字奉仕団
香取市赤十字奉仕団	本埜村赤十字奉仕団	大多喜町赤十字奉仕団

2 高額寄付募集

平成21年3月31日付財務省告示第59号による法人指定寄付金、また平成21年4月1日付総務省告示第229号により、個人指定寄付金のそれぞれの事業承認を得て高額社資の募集を行い、次のとおり実績をあげることができた。

- (1) 個人指定寄付金 87,654,344円（1,485件）
- (2) 法人指定寄付金 27,579,505円（804件）

### ○表彰実績

多額の寄付をお寄せいただいた個人・法人が、日本赤十字社及び国から次のとおり表彰された。

	受 章 者 数		
	個 人	法人 (団体)	計
金 色 有 功 章	25 人	10 社	35
銀 色 有 功 章	51	62	113
日本赤十字社社長感謝状	56	10	66
厚生労働大臣感謝状	29	0	29
紺 綬 褒 章	4	1	5
計	165	83	248

※一部、平成20年度の受章者を含む。

### 3 有功会の会員による継続した寄付

多額の寄付を寄せた功労により、日本赤十字社から有功章を贈られた方へ、千葉県赤十字有功会への加入をすすめ、会の親睦行事（チャリティーゴルフ・観劇会・旅行など）や総会、講演会を通じて赤十字への関わりをより深め、継続して支援いただけるよう努めた。また、平成21年度は、有功会創立35周年を祝った。

有功会員並びに会員の紹介により寄せられた寄付額  
寄付実績額 69,972,001円

### 4 チャリティーボックスによる募金活動

成田空港内の銀行をはじめテナントや空港周辺のホテル、県内のコンビニエンス・ストアや外食チェーン店のご協力をいただきチャリティーボックスを設置し、利用される方々からの寄付金により、次の実績をあげることができた。

寄付実績額 7,792,899円

### 5 広報活動（赤十字精神の普及）

5月・6月の赤十字運動月間と12月のNHK海外たすけあいを中心に広報キャンペーンを展開した。

全国統一スローガンである「いのちを救う、力を合わせよう」の浸透を図ること及び赤十字の事業や活動を具体的に広報し、社資がどのように活用されているかを、県民の皆様知らせていくことに留意した。

(1) 5月・6月の赤十字運動月間に行った広報活動・キャンペーン

全戸配布(回覧)チラシ	65万枚作成、各地区分区の自治会・町内会を通し各戸に配布(回覧)
公共機関・町内会掲示板用ポスター掲出	18,000枚を作成、公共機関・町内会の掲示板に掲出
新聞掲載	全国紙4紙、地方紙3紙及び県民だよりに掲載
地区分区による横断幕の掲出	16ヶ所において主要道路への横断幕の掲出
県内デパートにおける懸垂幕の掲出	千葉・松戸・船橋の4デパートに懸垂幕を掲出
電車内広告(車内刷り)	私鉄5社の1,200車両内に掲出
ラジオによる広報	FM局による30本の電波広報を実施
ケーブルテレビによる広報	ケーブルテレビ協会12社の協力によるテレビ広報の実施
世界赤十字デーキャンペーン	5月3日～5日(幕張メッセ) どきどきフリーマーケット日赤ブースの展開



(2) NHK海外たすけあいキャンペーンの実施

種類	実施期日	会場	実施内容
NHK海外たすけあいキャンペーン	平成21年12月1日～25日	成田空港内液晶ビジョン	スポットCM(1回30秒・1日16回)
//	平成21年12月5日～25日	NHK千葉支局	NHK海外たすけあい写真展
//	平成21年11月23日	柏市民文化会館	新聞販売店主催のチャリティー映画上映会での写真展
NHKハートプロジェクト in 千葉	平成21年12月23日	千葉駅前	NHK海外たすけあい募金活動

### (3) 年間を通じた広報

広報誌名	発行回数	発行数	主な配布先
赤十字新聞 (日本赤十字社発行)	12回	6,500部×10ヶ月	※寄付者、地区分区窓口用、赤十字奉仕団・ボランティア等、青少年赤十字採用校、マスコミ、評議員等関係者、赤十字病院・献血ルーム窓口用
		25,500部(5月)	上記※に加え、赤十字運動月間用資材(全戸回覧用)
		7,500部(12月)	上記※に加え、NHK海外たすけあいキャンペーン用資材
赤十字NOW (千葉県支部発行)	2回	87,000部(4月)	上記※に加え、全戸回覧・配布用(千葉県支部事業計画の広報)
		49,000部(12月)	上記※に加え、全戸回覧用(千葉県支部事業報告の広報)
ニュースレター (千葉県支部発行)	1回	60,000部	寄付募集DM用、キャンペーン用資材

### (4) 赤十字セミナー in ちば 2009の開催

赤十字の活動について県民に広報する場として、千葉県の赤十字3施設(千葉県支部、成田赤十字病院、千葉県赤十字血液センター)が合同で、平成19年から赤十字セミナーを開催してきた。

今回は、秋季に大流行が懸念された新型インフルエンザへの対応をテーマとして、感染予防の知識や学校での取り組みの紹介、成田赤十字病院の感染症への対応などについて、講演やパネルディスカッションを行った。



ア 開催日時 平成21年10月3日(土) 13:30~15:30

イ 会場 イオンモール成田 2階「イオンホール」

ウ 参加者 県民 100名ほか

エ 内容 (ア) 基調講演 「新型インフルエンザについて」  
成田赤十字病院 野口博史 感染症科部長

(イ) パネルディスカッション  
「どうしたらいいの? 新型インフルエンザの感染予防と拡大防止」

## 6 地区区分区における赤十字活動の実施

### (1) 地区区分区交付金を活用した活動の実施

地区区分区では交付金を活用し、赤十字運動月間中の広報活動による赤十字精神の普及、赤十字地域奉仕団による地域活動助成金の支援や青少年赤十字活動への支援及び防災資器材、炊き出し用具等の整備を行った。

なお、支部でも活動の活発化を図るために、交付金の活用について地区区分区に活動事例等を提示するなど情報提供を行った。

### (2) 地区区分区における赤十字資金の適正な運用の確保

平成21年7月に発覚した地区における赤十字資金をめぐる不祥事については、当該地区の努力により、事態の解明と再発防止策の確立、職員の処分、被害金額の補てん等が行われた。

支部では、地区区分区長あてに、再発防止の文書を発するとともに、臨時の地区区分区参与会議を開催し、赤十字社資の適正管理の徹底と交付金の運用について、地区区分区の意識の喚起を図るなど、再発防止及び赤十字資金の適正管理・運用に万全を期した。

## 7 各種会議・研修会の開催

支部では、地区区分区が行う業務の状況を把握し、交付金が趣旨に即して適正かつ効果的に執行されるよう会議・研修会等を開催するなど、相談・支援体制の強化を図った。

### (1) 地区長会議の開催

平成21年度5月・6月の赤十字運動月間を円滑に実施するため、赤十字のしくみと活動についてご理解とご協力をいただくため、会議を開催した。

- 1) 開催期日：平成21年4月14日（火）
- 2) 参加者数：31名
- 3) 会議内容：平成21年度千葉県支部の事業展開等について

### (2) 地区区分区新任事務委員研修会の開催

地区区分区において、新しく赤十字業務を担当される地区区分区（市町村）職員に対し赤十字のしくみと活動についての研修会を開催した。

- 1) 開催期日：平成21年4月23日（木）
- 2) 参加者数：46名
- 3) 内 容：赤十字について及び赤十字事務取扱マニュアル等について

### (3) 地区区分区実務担当者研修会の開催

地区区分区における赤十字活動や交付金の取り扱いの周知及び情報交換の場として研修会を開催した。

- 1) 開催期日：平成21年11月10日（火）
- 2) 参加者数：48名
- 3) 内 容：地区区分区での赤十字活動や交付金の事務処理等について

(4) 臨時地区参与・分区幹事会議の開催

赤十字事業資金並びに地区分区の適正な管理と運用について、周知いただくための会議を開催した。

- 1) 開催期日：平成21年11月24日（火）
- 2) 参加者数：54名
- 3) 会議内容：社資及び交付金の適正管理及び運用等、不祥事発生を踏まえた対応について

(5) 地区分区事務連絡会議の開催

平成22年度日本赤十字社千葉県支部の事業計画及び5月・6月の赤十字運動月間の地区分区での取り組み等についての会議を開催した。

- 1) 開催期日：平成22年2月25日（木）
- 2) 参加者数：52名
- 3) 会議内容：平成22年度支部事業計画、地区分区における活動事例の提案、赤十字運動月間について

## 第11 事業推進のための会議

日本赤十字社定款に基づき、支部の重要な事業について審議していただくため評議員会を開催した。

また、赤十字事業の推進に関する意見を徴するため、参与会議を開催した。

### (1) 評議員会（評議員 54 人：支部長選出 7 名、地区選出 47 名）

期 日	内 容
平成 21 年 6 月 9 日	・平成 20 年度の事業報告及び一般会計歳入歳出決算、医療施設特別会計歳入歳出決算、血液事業特別会計歳入歳出決算
平成 22 年 2 月 9 日	・日本赤十字社代議員選出 ・平成 22 年度の事業計画(案)及び一般会計歳入歳出予算(案)、医療施設特別会計歳入歳出予算(案)、血液事業特別会計歳入歳出予算(案)

### (2) 参与会議

(参与 3 人：千葉県総務部長、同健康福祉部長、同教育長)

期 日	内 容
平成 22 年 2 月 3 日	・平成 22 年度事業計画(案)及び一般会計歳入歳出予算(案)、医療施設特別会計歳入歳出予算(案)、血液事業特別会計歳入歳出予算(案)



## 第12 職員研修

赤十字職員として求められる赤十字や国際人道法等に関する知識の習得と、赤十字の使命に対する意識の高揚を図り、志と意欲をもって職務に従事できるよう、支部事務局、成田赤十字病院、千葉県赤十字血液センター職員を対象とした合同研修を実施した。

また、21年度はこれら研修の計画的な実施と受講を促進するため、研修体系を整備した。

### 研修の実施状況

- 新規採用職員研修会
  - ・平成21年3月26日～27日及び4月7日～8日
  - ・参加者75人
- 一般職員研修会（入社5年程度）
  - ・平成21年10月1日
  - ・参加者20人
- 中堅職員研修会：後期（係長級3～5年程度）
  - ・平成21年12月15日～16日
  - ・参加者15人
- 管理職研修会：後期（課長級3～5年程度）
  - ・平成22年1月28日～29日
  - ・参加者9人
- 新任係長級職員研修会【3県支部（埼玉・千葉・神奈川）合同開催】
  - ・平成21年7月28日～29日
  - ・千葉県参加者9人
- 新任課長級職員研修会【3県支部（埼玉・千葉・神奈川）合同開催】
  - ・平成21年7月1日～3日
  - ・千葉県参加者4人

## 第13 千葉県赤十字会館の竣工

平成18年4月から

○赤十字の基本理念である「人道」が体現できるシンボリックな建物

○赤十字ボランティアをはじめ県民が訪れ利用しやすい建物

○機能的でかつ維持管理しやすい建物

をコンセプトとして建設を進めてきた千葉県赤十字会館が、平成21年8月末に竣工し、9月から供用を開始した。

新会館は、千葉県における赤十字運動の拠点として、また、災害時における救護活動及び安定的な血液の確保・供給のための拠点としての役割を担うものであり、

○建物は制震構造とするほか、非常用自家発電装置や非常用井戸の設置、被災情報の迅速収集のための映像伝送システム及び無線室を備えるなどの危機対応を強化

○ボランティア室や講習室・会議室を効率的に配置、救急法の講習や赤十字奉仕団・青少年赤十字などの研修・交流スペースを拡張

○血液センター(千葉港出張所)の専用入口を設け、採血バス、血液運搬緊急車両等の車両動線と来館する歩行者の動線を分離し、利用者の安全性を確保

○1階に「ギャラリー糸杉」と名付けた展示エリアを設置し、赤十字の歴史や活動、国際人道法等を紹介。隣接の市民公園に続くテラスを設けるなどの開かれた施設

○直射日光遮断の日射調整ルーバー、採光や自然換気のエコボイド(省エネルギー対策換気塔)を取り入れた、環境負荷低減構造の施設

を特徴としている。



### 落成式

「～ここから始まる次への歩み～」をテーマとして掲げ、『千葉県赤十字会館落成式』を、平成21年9月17日、新会館6階大会議室で挙行了した。

式典には、来賓、赤十字関係者等150名余の方々に出席をいただいた。



### 赤十字のひろば

赤十字奉仕団や青少年赤十字、赤十字有功会婦人部の共同企画・運営による「～見て・聞いて・知って 新たな赤十字拠点からのメッセージ～」の呼びかけで、千葉県赤十字会館落成記念の「赤十字のひろば」が、平成21年11月28日、新会館及び隣接公園を会場に開催され、1,000人を超える市民が来場し、交流した。

新会館見学者
--------

見学年月日	見学団体名	見学者数
21. 10. 14	東京都杉並区赤十字奉仕団	30人
21. 10. 27	浜松市雄踏地区民生・児童委員	25
21. 10. 29	酒々井町赤十字奉仕団	25
21. 10. 30	香取地区赤十字奉仕団・青少年赤十字連絡協議会	27
21. 11. 5	山梨県赤十字有功会	30
21. 11. 12	日本赤十字社埼玉県支部	6
21. 11. 13	世田谷区赤十字奉仕団等々力分団	30
21. 11. 18	大田区赤十字奉仕団蒲田東分団	42
21. 11. 19	大田区赤十字奉仕団下馬出張所東分団	30
21. 11. 19	長野県地域奉仕団、日本赤十字社長野県支部	17
21. 11. 20	青少年赤十字東部地区高校メンバー協議会	40
21. 11. 24	草加市川柳地区社会福祉協議会福祉委員会	25
21. 11. 25	第2ブロック支部奉仕団委員長・担当課長	16
21. 12. 4	千葉市中央区赤十字奉仕団	45
21. 12. 7	長南町赤十字奉仕団	15
21. 12. 9	柏市赤十字奉仕団	70
21. 12. 11	袖ヶ浦市赤十字奉仕団	30
21. 12. 11	夷隅地区青少年赤十字賛助奉仕団	30
22. 1. 18	浦安市赤十字奉仕団	30
22. 1. 21	山武郡赤十字奉仕団	20
22. 1. 22	野田市赤十字奉仕団	40
22. 1. 26	千葉県赤十字看護奉仕団	18
22. 1. 30	千葉県赤十字語学奉仕団	15
22. 2. 9	九十九里町赤十字奉仕団	30
22. 2. 17	千葉市花見川区赤十字奉仕団	20
22. 2. 18	香取市社会福祉協議会小見川北地区運営委員	20
22. 2. 19	千葉県青少年赤十字高校メンバー協議会	80
22. 2. 22	茂原市赤十字奉仕団	30
22. 2. 22	東京都中野区赤十字奉仕団	45
22. 2. 23	習志野市赤十字奉仕団	20
22. 2. 24	小見川中央地区社会福祉協議会	40
22. 3. 3	旭市赤十字奉仕団	70
22. 3. 3	川崎市赤十字奉仕団	32
22. 3. 3	三鷹市赤十字奉仕団	39
22. 3. 3	鋸南町立勝山小学校	53
22. 3. 16	鴨川市赤十字奉仕団	28
22. 3. 23	千葉市地区指導者協議会	20
計		1, 183

## 第14 歳入歳出決算の概要

### 1 一般会計

#### (1) 歳入及び歳出

平成21年度の歳入は、決算額1,752,461,844円で、前年度に比して637,900,877円(57.2%)の増となった。

これは、社資収入が前年度に比して61,490,787円(8.4%)の減、補助金及び交付金収入が本社からの交付金等において、25,102,491円(92.7%)の減となる一方、繰入金収入が千葉県赤十字会館建設費として施設整備準備資金等から一般会計に繰入れたことにより706,049,042円(363.5%)の大幅な増となったことによるものである。

歳出は、決算額1,671,385,172円で、前年度に比して663,953,848円(65.9%)の増となった。

これは、災害救護事業費が前年度でd E R Uの整備が終了したことにより38,130,965円(34.3%)の減、社会活動費が新型インフルエンザ感染拡大の影響を受けて救急法フェスタや青少年赤十字スタディーセンターなどの各種行事を中止したことにより30,201,836円(18.2%)の減となる一方、国際活動費がハイチ地震災害などの海外救援金寄託の増加により16,821,831円の増、資産取得及び資産管理費が千葉県赤十字会館建設費及び市川災害救援物資備蓄倉庫改築用地の取得等により724,194,145円(343.6%)の大幅な増となったことによるものである。

この結果、歳入歳出差引額は81,076,672円となり、翌年度に繰越すこととした。

#### (2) 資金会計について

資金会計については、災害等資金及び施設整備準備資金から千葉県赤十字会館建設費として873,629,645円を取崩し一般会計に繰り出した。

また、スマトラ島沖地震及びハイチ地震の救援金として受付けた26,648,344円を会計処理上、国際救護活動資金(2支部国際活動基金)に積立て、同額を一般会計に繰出し国際活動費として支出した。

以上の結果、平成21年度末資金残高は253,756,452円となった。

一般会計歳入歳出決算表

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
第2款 支部収入	1,752,461,844 (1,114,560,967)	第2款 支部費	1,671,385,172 (1,007,431,324)
第1項 社 資 収 入	673,581,397 (735,072,184)	第1項 災 害 救 護 事 業 費	73,071,965 (111,202,930)
第3項 補助金及び交付金収入	1,978,825 (27,081,316)	第2項 社 会 活 動 費	135,457,075 (165,658,911)
第4項 繰 入 金 収 入	900,277,989 (194,228,947)	第3項 国 際 活 動 費	36,804,084 (19,982,253)
第9項 雑 収 入	69,493,990 (75,192,128)	第4項 指 定 事 業 地 方 振 興 費	87,654,344 (70,817,788)
第10項 前 年 度 繰 越 金	107,129,643 (82,986,392)	第5項 地 区 分 区 交 付 金 支 出	80,829,283 (84,905,448)
		第6項 社 業 振 興 費	80,027,173 (80,340,579)
		第7項 基盤整備交付金・補助金支出	20,223,243 (14,754,228)
		第10項 積 立 金 支 出	14,397,372 (16,051,620)
		第12項 総 務 管 理 費	124,225,768 (137,710,880)
		第13項 資 産 取 得 及 び 資 産 管 理 費	934,942,733 (210,748,588)
		第14項 本 社 送 納 金 支 出	83,752,132 (95,258,099)
合 計	1,752,461,844 (1,114,560,967)	合 計	1,671,385,172 (1,007,431,324)

( ) は平成20年度決算額

歳入歳出差引額 (翌年度繰越金) 81,076,672円

資 金 増 減 表

(単位：円)

資 金 別	前 年 度 末 現 在 額 ①	平 成 21 年 度 繰 出 額 ②	平 成 21 年 度 利 子 収 入 ③	平 成 21 年 度 積 立 額 ④	平 成 21 年 度 末 現 在 額 ① - ② + ③ + ④
災 害 等 資 金	444,508,870	388,440,645	3,276,942	0	59,345,167
国際救護					
1 国際救護活動資金	20,574,226	0	0	0	20,574,226
活動資金					
2 支部国際活動基金	83,252,199	26,648,344	0	26,648,344	83,252,199
施設整備準備資金	529,711,622	485,189,000	125,759	0	44,648,381
特別退職金積立留保金	45,936,479	0	0	0	45,936,479
合 計	1,123,983,396	900,277,989	3,402,701	26,648,344	253,756,452

## 2 医療施設特別会計

### (1) 収益的収入及び支出

平成21年度の収入は、決算額16,358,683,387円で、前年度に比して356,810,772円(2.1%)の減となった。

これは、主要な収入である医業収益が、内科医師の不足により外科系の診療科にも影響して、病床利用の低下が続き稼動が伸びず、決算額15,273,393,483円となり、前年度に比して507,634,431円(3.2%)の大幅な減となったことによるものである。

支出は、決算額16,816,685,031円で、昨年度に比して65,582,172円(0.4%)の減となった。

これは、医業費用において、外来患者並びに入院患者が減少したことにより、医薬品費、材料費の減少と経費の節減に努めたものの、委託業務を職員採用に切り替えたことによる給与費の増加が影響し、決算額16,014,322,705円となり、前年度に比して46,732,017円(0.3%)の減となったことによるものである。

この結果、本年度の収入支出差引額は458,001,644円の損失となった。

### (2) 資本的収入及び支出

平成21年度は、固定資産の整備費に404,330,456円で、前年度に比して186,799,928円(31.6%)の減であった。

また、既借入金のうち当期の償還額として270,314,000円、医療機器等のリース料として11,995,648円を計上した。

なお、この財源として補助金及び自己資金で行った。

医療施設特別会計歳入歳出決算表

収益の収入及び支出

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
第2款 病院収益	16,358,683,387 (16,715,494,159)	第2款 病院費用	16,816,685,031 (16,882,267,203)
第1項 医 業 収 益	15,273,393,483 (15,781,027,914)	第1項 医 業 費 用	16,014,322,705 (16,061,054,722)
第2項 医 業 外 収 益	993,454,531 (855,315,765)	第2項 医 業 外 費 用	473,294,916 (421,537,461)
第3項 医療社会事業収益	12,994,902 (6,285,954)	第3項 医療奉仕費用	157,188,780 (151,258,026)
第4項 付帯事業収益	74,488,062 (66,133,056)	第4項 付帯事業費用	148,318,056 (149,469,033)
第5項 特別利益	4,352,409 (6,731,470)	第5項 特別損失	10,365,570 (85,224,395)
		第6項 法人税等	13,195,004 (13,723,566)
合 計	16,358,683,387 (16,715,494,159)	合 計	16,816,685,031 (16,882,267,203)

( ) は平成20年度決算額

収入支出差引額 (損失金)

△ 458,001,644円

資本的収入及び支出

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
第2款 病院収入	686,640,104 (951,371,275)	第2款 病院費	686,640,104 (951,371,275)
第1項 固 定 負 債	234,488,610 (270,554,219)	第1項 固 定 資 産	404,330,456 (591,130,384)
第3項 その他資本収入	452,151,494 (680,817,056)	第2項 借入金等償還	282,309,648 (360,240,891)
合 計	686,640,104 (951,371,275)	合 計	686,640,104 (951,371,275)

( ) は平成20年度決算額

収入支出差引額

0円

### 3 血液事業特別会計

#### (1) 収益的収入及び支出

平成 21 年度の収入は、決算額 8,036,669,558 円で、前年度に比して 340,949,839 円 (4.4%) の増となった。

主要収入である事業収入については、決算額 6,816,370,808 円で、前年度に比して 308,414,008 円 (4.7%) の増となった。

これは、血液製剤供給数の増 (5.0%) 及び原料血液送付量の増 (6.5%) 等により増収となったものである。

支出は、決算額 7,883,734,933 円で、前年度に比して 287,373,199 円 (3.8%) の増となった。このうち事業費用は、決算額 6,147,528,849 円で、前年度に比して 222,765,525 円 (3.8%) の増となった。

これは、千葉港センター建物の解体に伴う諸費用及び東京都センターとの製造集約にかかる費用の増加等によるものである。

この結果、収入支出差引額は、前年度に比して 53,576,640 円上回る 152,934,625 円の剰余となった。

#### (2) 資本的収入及び支出

平成 21 年度固定資産支出は、千葉港出張所建物、及び建物付属設備等の整備費用 630,732,666 円で、前年度に比して 618,055,724 円の大幅な増加となった。

この財源は、長期借入金、本社・支部からの繰入金、及び自己資金である。

なお、千葉港出張所建物等の建築費 270,292,727 円は本年度精算した。

血液事業特別会計歳入歳出決算表

収益的収入及び支出

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
第1款 血液事業収入	8,036,669,558 (7,695,719,719)	第1款 血液事業費用	7,883,734,933 (7,596,361,734)
第1項 事業収入	6,816,370,808 (6,507,956,800)	第1項 事業費用	6,147,528,849 (5,924,762,324)
第2項 事業外収入	104,056,779 (143,405,343)	第2項 事業外費用	176,762,802 (161,144,070)
第3項 関連事業収入	3,725,000 (5,841,000)	第3項 関連事業費用	3,739,700 (5,841,000)
第4項 本支社勘定収入	1,098,447,311 (1,033,061,612)	第4項 本支社勘定費用	1,555,684,800 (1,488,318,800)
第5項 特別収入	14,069,660 (5,454,964)	第6項 特別損失	18,782 (16,295,540)
	8,036,669,558 (7,695,719,719)		7,883,734,933 (7,596,361,734)

( ) は平成20年度決算額

収入支出差引額 (剰余金)

152,934,625円

資本的収入及び支出

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
第1款 血液事業収入	630,732,666 (282,969,669)	第1款 血液事業支出	630,732,666 (12,676,942)
第1項 借入金等収入	350,000,000 (250,000,000)	第1項 固定資産支出	630,732,666 (12,676,942)
第3項 その他収入	280,732,666 (32,969,669)		
合 計	630,732,666 (282,969,669)	合 計	630,732,666 (12,676,942)

( ) は平成20年度決算額

収入支出差引額

0円

# 監査報告書

私ども監査委員は、日本赤十字社定款第62条第4項の規定に基づき、平成22年5月31日に平成21年度日本赤十字社千葉県支部一般会計、成田赤十字病院医療施設特別会計及び千葉県赤十字血液センター血液事業特別会計の決算について監査を実施した結果、支部における歳入歳出決算報告書、収支計算書、貸借対照表及び付属明細書並びに病院における歳入歳出決算報告書、損益計算書、貸借対照表、利益金処分（損失金処理）計算書及び付属明細書並びに血液センターにおける歳入歳出決算報告書、収支計算書、貸借対照表、剰余金処分（損失金処理）計算書及び付属明細書は、日本赤十字社会計規則に従い適正に表示され、業務及び会計の執行状況は適正になされているものと認めます。

平成22年5月31日

日本赤十字社千葉県支部

監査委員

岩田利雄 

監査委員

手島英男 





人間を救うのは、人間だ。